

2017/9/1

BLJ2017

プロポーザル資料

〈目次〉

- 1 . 木更津市の現状
- 2 . 日常の空洞化
- 3 . コンセプト
- 4 . 提案

〈アクアラインによるストローク現象〉  
〈大型商業施設を利用する木更津市民〉

車の利用頻度が多くなり、「移動」という行為は目的地に行くだけで味気ない・・・

市街地の衰退は  
「日常の空洞化」の現れ

ともいえる

車の利用頻度が多くなり、  
「移動」という行為は目的地に行くだけで味気ない

市街地の衰退は  
「日常の空洞化」の現れ ともいえる



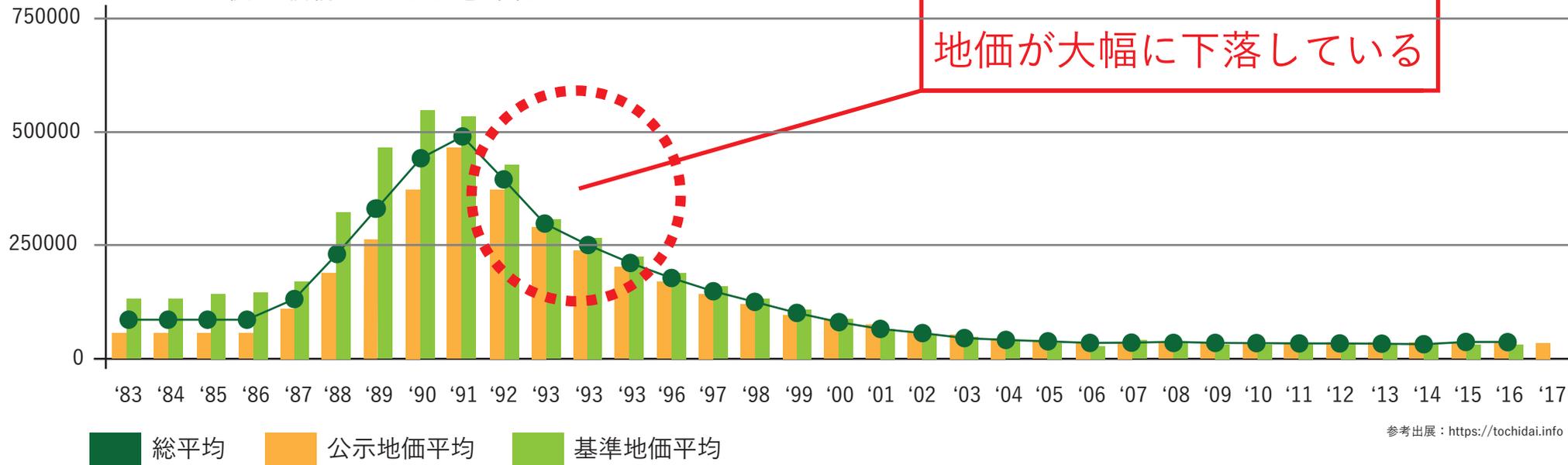
移動時間・空間を豊かにする  
「新たな日常」のためのモビリティ

を提案する

# 1. 木更津市の現状

## i) 市内のドーナツ化現象

・ バブル後の駅前における過疎化



・ シャッター街化する旧市街地



木更津の現況の写真

駅前の商店街は  
多くが空き店舗となっている

# 1. 木更津市の現状

## ii) ストロー現象

1997年12月に更津市と川崎市を結ぶ東京湾アクアラインが開通した。ベッドタウンとして人口流入が期待されたが、通行料が割高なため、マイカーではなく高速バス利用が進んだ。その結果ストロー効果によって経済活動が他所で行われ、木更津市内での消費は減少した。



# 1. 木更津市の現状

2017/9/1  
プロポーザル

## iii) 大型ショッピングモールの出現（商業圏のドーナツ化）

三井アウトレットパーク 木更津



[http://www.jk-reform.jp/naito/2012/05/post\\_1452.html](http://www.jk-reform.jp/naito/2012/05/post_1452.html)

イオンモール 木更津



<https://www.animate.co.jp/shop/kisarazu/blog/>

〈大型商業施設を利用する木更津市民〉

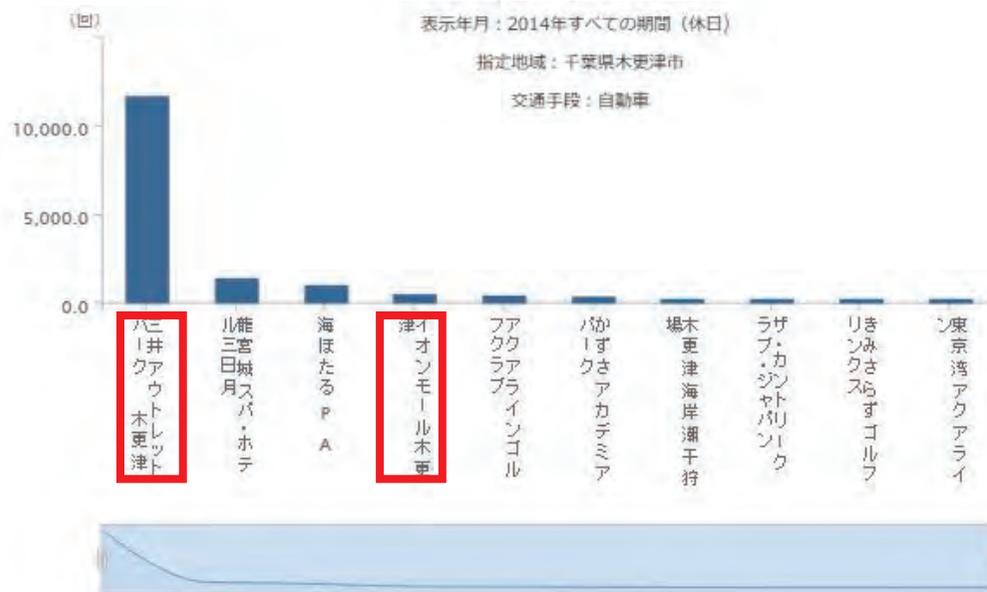
# 1. 木更津市の現状

## iii) 大型ショッピングモールの出現（商業圏のドーナツ化）

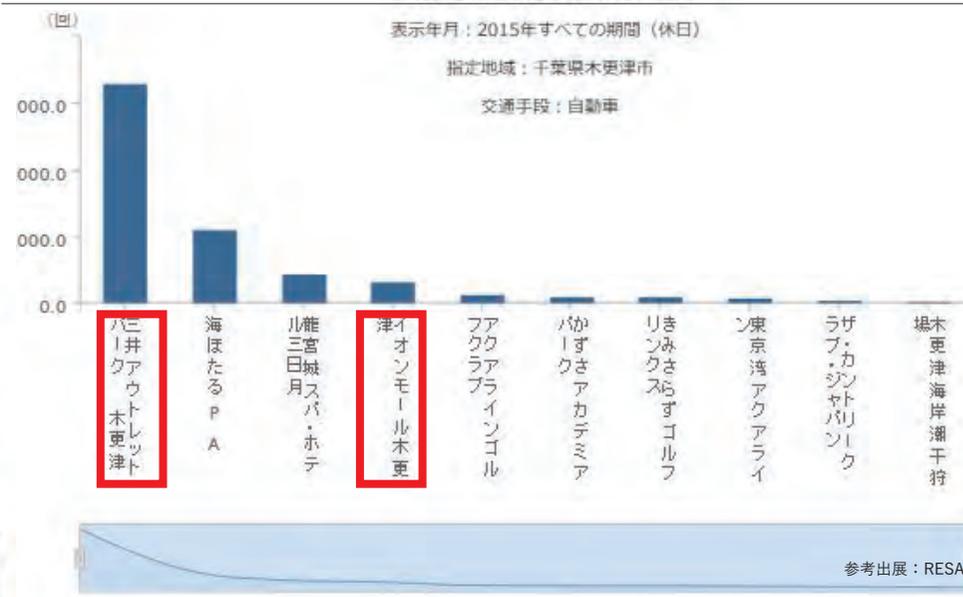
商業的に強い2つの極が近年木更津市内で出現した。

- ・2012年4月 三井アウトレットパーク 木更津開業
- ・2014年11月 イオンモール木更津開業

指定地域の目的地一覧



指定地域の目的地一覧



自動車での目的地の多くは、  
アウトレットとイオンモールが占めている

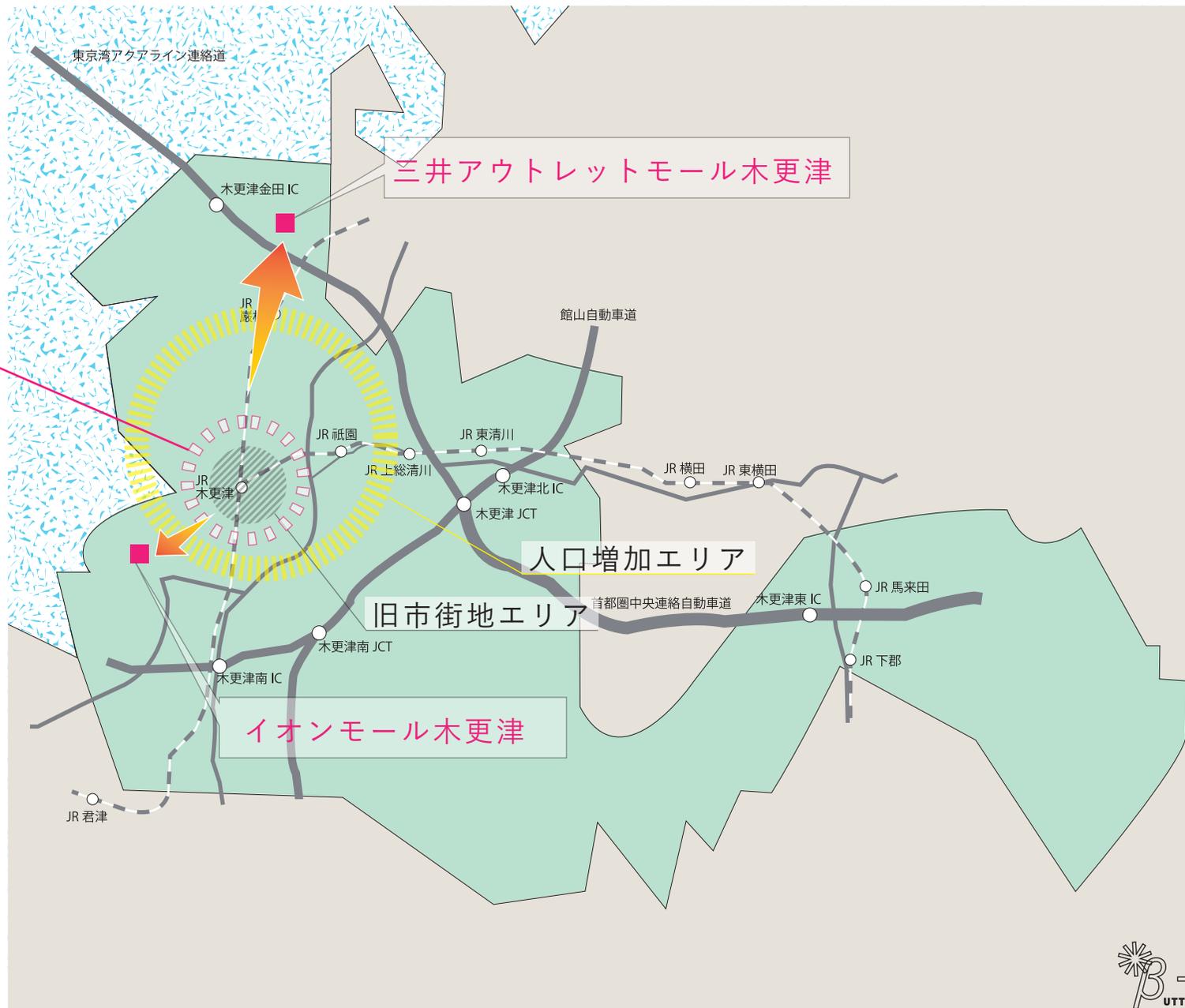
# 1. 木更津市の現状

## iv) それぞれの日常

日常の空洞化

自動車による移動は  
目的地間の移動を  
他者や街と共有する機会を減らした。

かつては多くの市民の日常が交錯する  
場所であった旧市街地は  
人が歩かなくなったことで、  
まちの活気が失われるとともに  
それまで人々が共有していた日常が  
失われてしまった



〈アクアラインによるストローク現象〉  
〈大型商業施設を利用する木更津市民〉



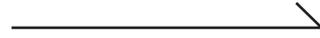
モーターゼーション

車による移動を助長している

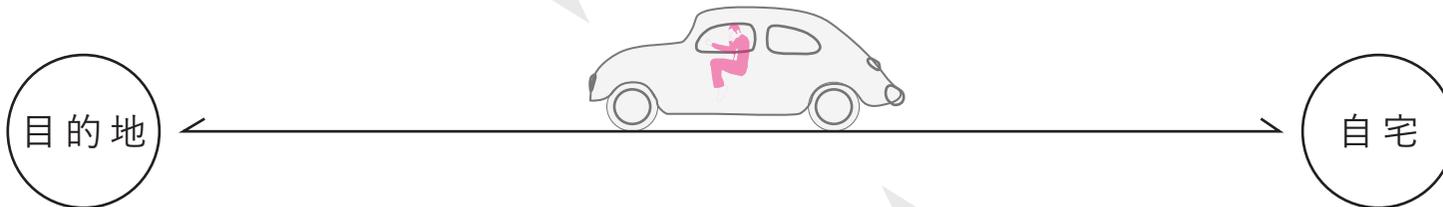


街を歩く機会の減少

街を歩く機会の減少

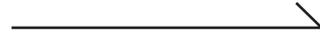


車の利用頻度が多くなり、  
「移動」という行為は目的地に行くだけで味気ない



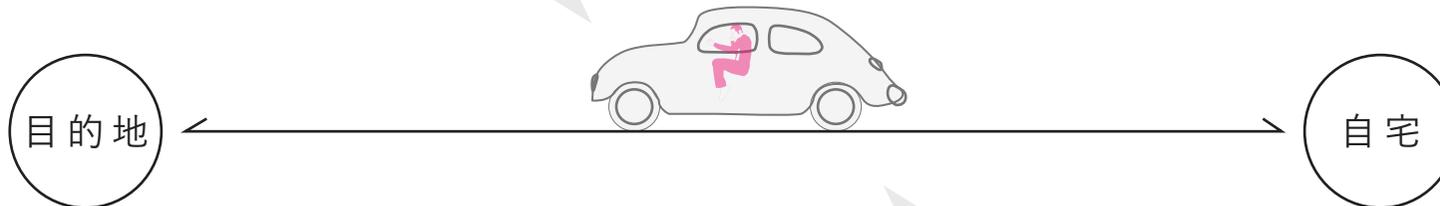
目的地までの移動は車内という個人空間  
街を誰かと楽しむことはない

街を歩く機会の減少



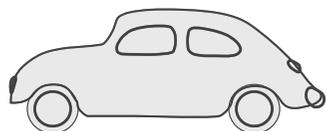
移動間の消費と  
にぎわいの消失

車の利用頻度が多くなり、  
「移動」という行為は目的地に行くだけで味気ない



目的地までの移動は車内という個人空間  
街を誰かと楽しむことはない

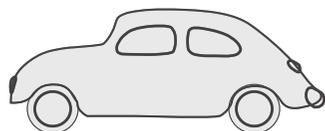
車による移動が  
旧市街地の衰退を  
助長しているのではないか？



そして、  
モータリゼーションが助長している 市街地の衰退は

## 「日常の空洞化」

の現れといえる



そこで、

日常空間がぽっかりと

街と人々の生活から抜け落ちてしまったこの場所に

移動時間・空間を豊かにする

「新たな日常」

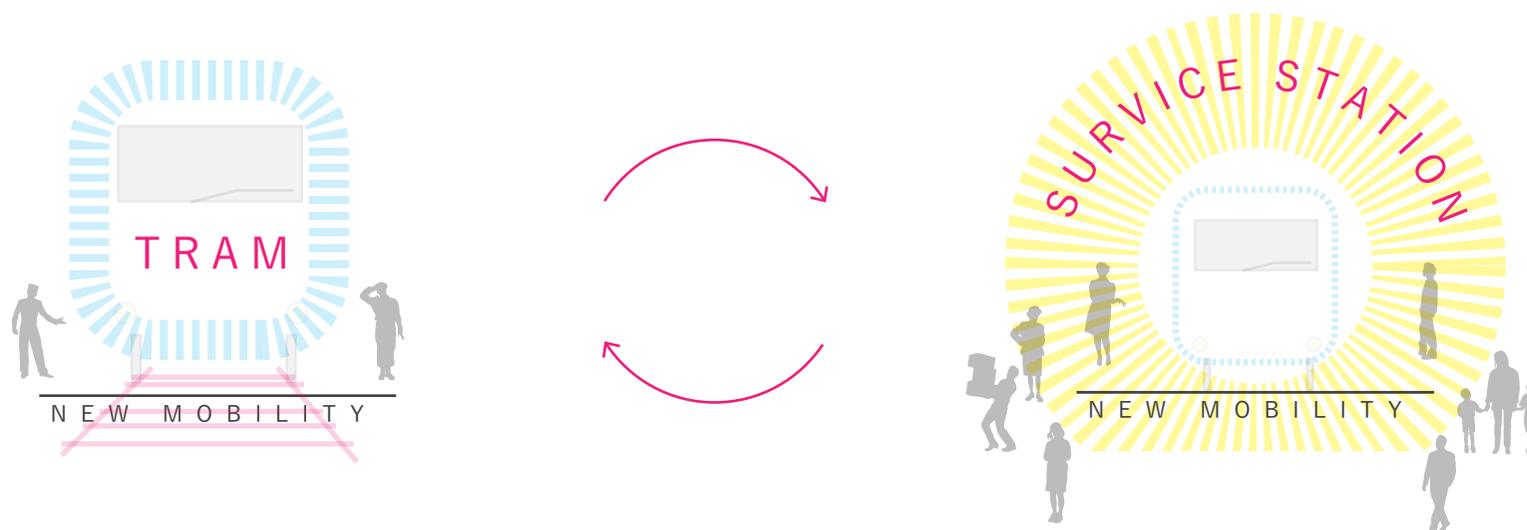
を提案する

その「新たな日常」は

# モビリティ + 公共性

これまでモビリティにはなかったような公共性を  
付与することで生まれる

用途のある ترامが木更津市内の市民活動の拠点となる  
停留所を定期的に回る

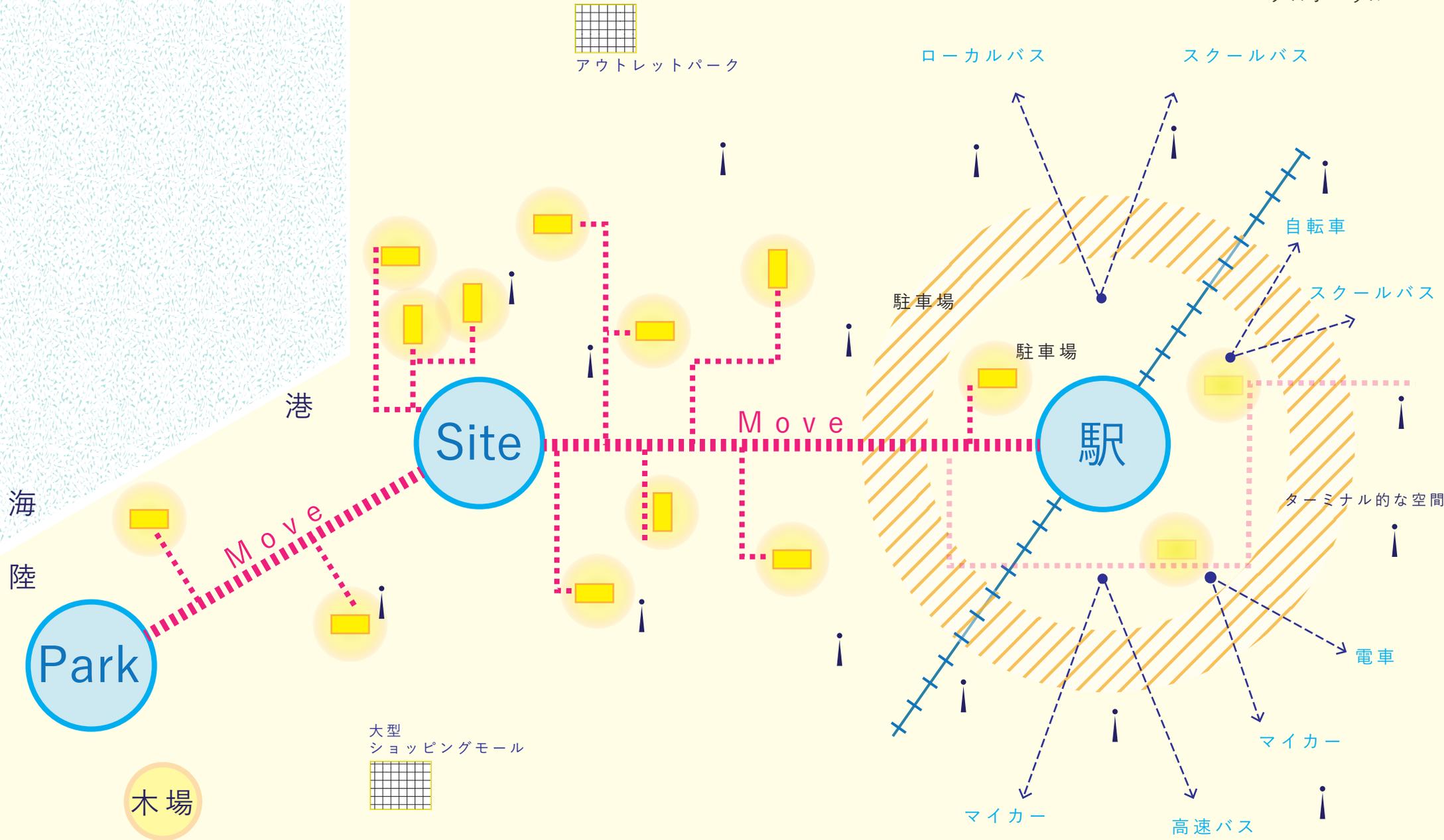


レール上を走る ترامによってにぎわいが面的に広がる

市民は利便性から ترامを利用し、  
停留所では日常を彩るアクティビティが繰り広げられる

### 3. コンセプト

2017/9/1  
プロポーザル



トラムの配置イメージ 場所の特性をよみとりながら停車場を設ける

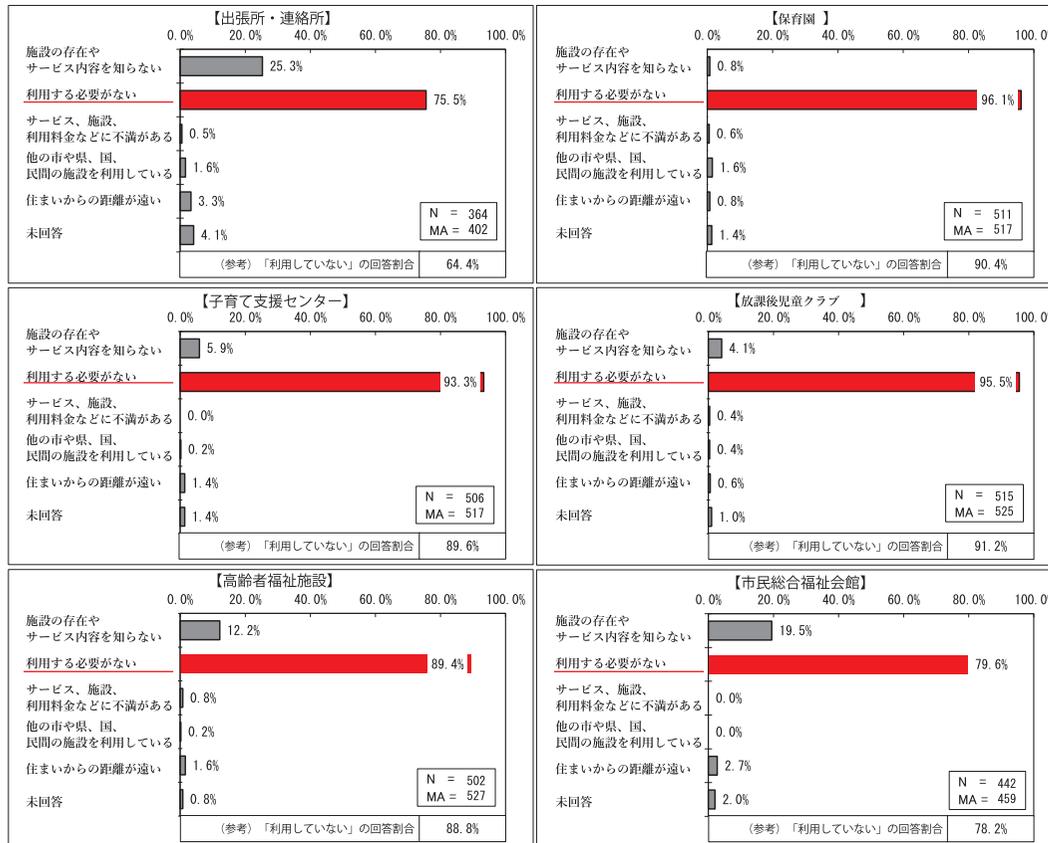
# 4. 提案

## i) 必要とされる「公共空間」はなにか

木更津市民の公共施設に関する意識調査の中で、施設を利用しない理由の大半に「利用する必要がない」が占めており、公共施設を利用する機会・必要性を感じていない。

しかし、同調査の中で〈図書館〉〈高齢者福祉施設〉〈保育園〉については新設すべきと考える市民が多いことがわかる。

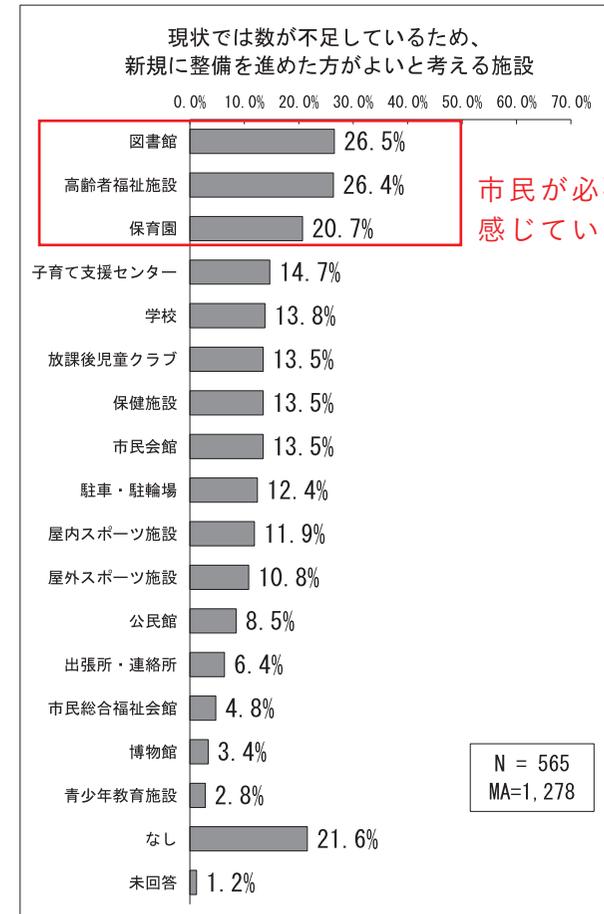
施設を利用していない理由



参考文献：木更津市公共施設の利用状況等に関する 市民アンケート調査 報告書

→そもそも公共施設を利用する必要を感じていない

図表 施設区分の増減に対する意向【各グラフ施設区分の選択率高位順】



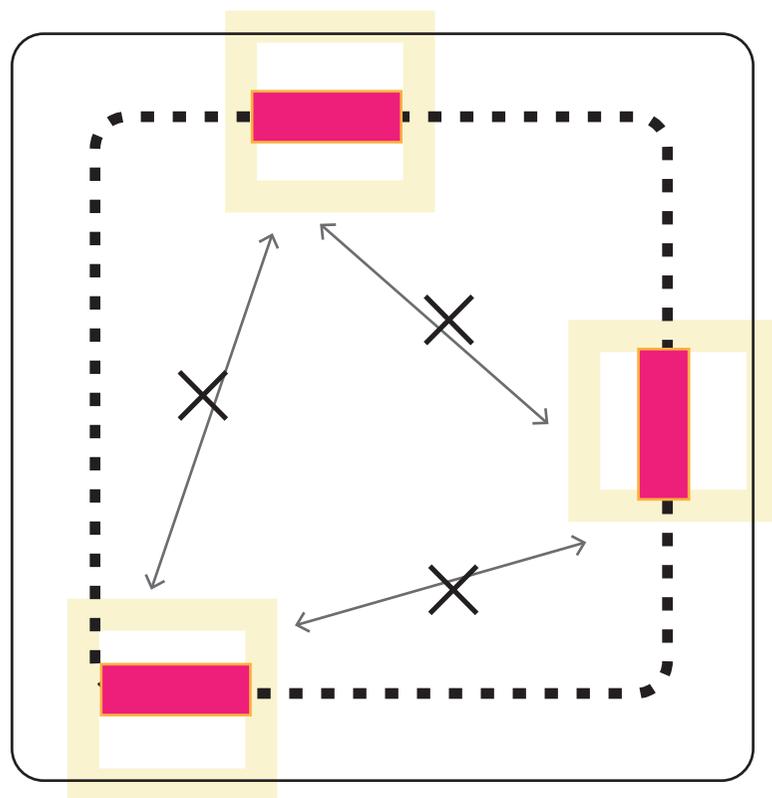
市民が必要と  
感じている施設

N = 565  
MA = 1,278

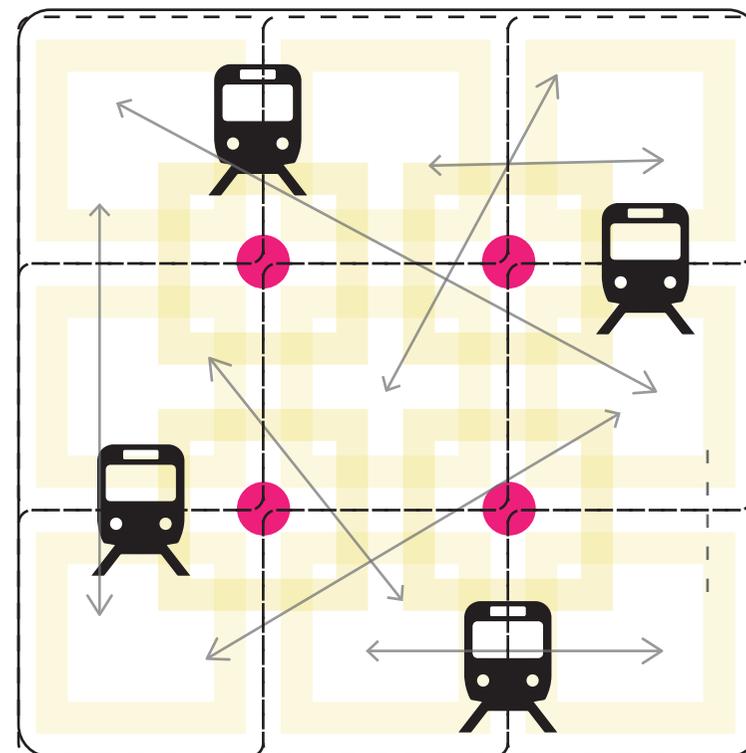
## 4. 提案

### ii) 新たなモビリティによる公共空間

私たちはこうした市民の意見に問題意識を向け、  
新たなモビリティの導入による賑わい創出させる提案を行うことで  
街に人が集えるような場や活動を表出させる。



線的なつながり



面的なひろがり

## 4. 提案

### iii) New Mobility

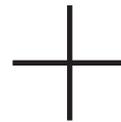
#### ◇ ترامによる新しいコミュニティ形成

日常の空洞化が懸念される木更津に、二種類の新しい ترامを提案する。

〈アクティブ ترام〉は、 ترامの車両一両一両が地域の人が集まるコミュニティスペースとなり、通勤・通学に用いる〈高速 ترام〉によって駅前へのアクセスの利便性が向上する。



- 移動のための ترام -



- 地域コミュニティの形成のための ترام -

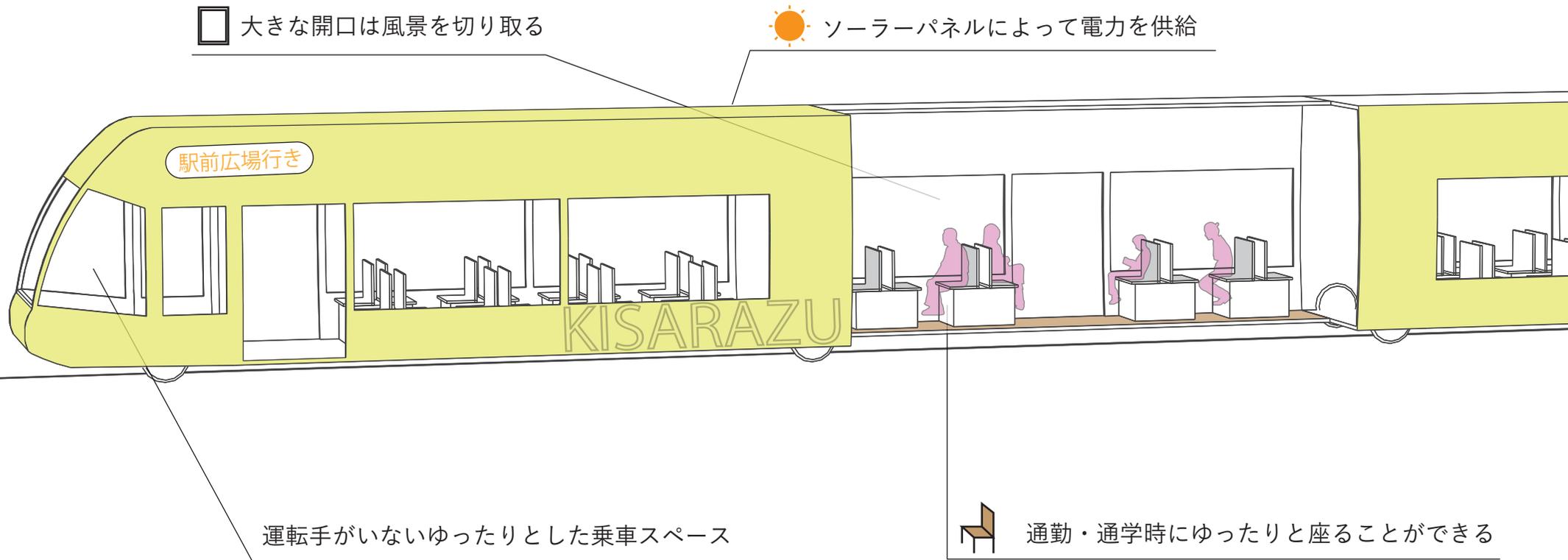
## 4. 提案

2017/9/1  
プロポーザル

### iii) New Mobility – 高速トラム –

#### ◇ 高速トラム

街中から、通勤するサラリーマンや通学する学生が利用することができる高速トラム。電池式で稼働することから、電線が不要になりスマートな形態になる。また、自動運転システムを採用して運転手がないトラムを空間を作り出す。



## 4. 提案

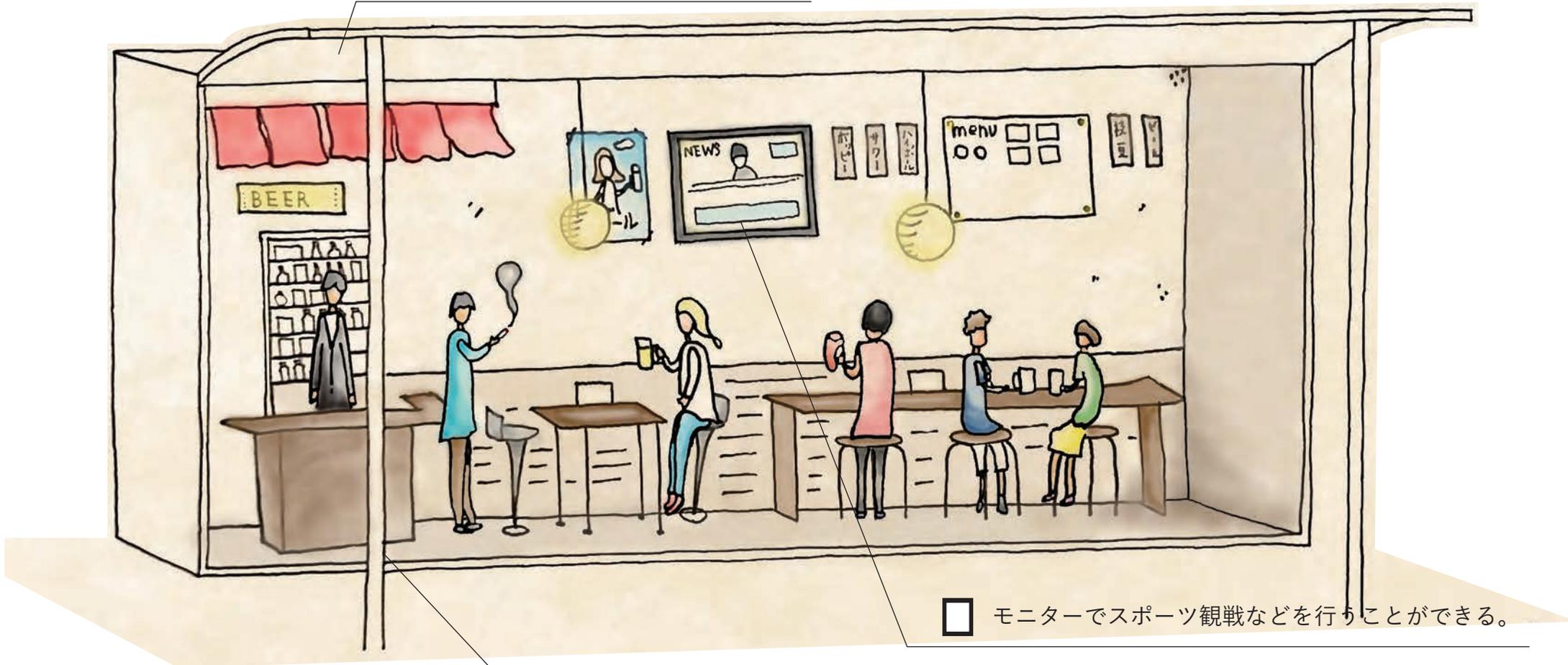
2017/9/1  
プロポーザル

### iii) New Mobility – アクティブ・トラム –

#### ◇居酒屋

可動の居酒屋的機能を持った空間を形成する。風景が変化したり、使われ方が状況によっても変化するなど、訪れる人々に多くの体験を与えることができる。バーのような側面、大衆酒場のような側面など、様々な捕らえ方が可能。

● 明るく空間を照らす



□ モニターでスポーツ観戦などを行うことができる。

||||| カウンターで豊富な種類のお酒等を注文することができる

## 4. 提案

2017/9/1  
プロポーザル

### iii) New Mobility - アクティブ・トラム -

#### ◇託児所

共働きの家庭など、夕方の時間帯に子供たちが遊んでいられる空間を形成する。土日では、親子でのイベントを行うことが可能。また、トラムが動くことにより風景が移り変わりながら、周辺の住宅にお迎えなども行うことができる。

 ソーラーパネルによって電力を供給



 掲示板のような役割を果たす

 素足で走り回れるように木目を張る

## 4. 提案

2017/9/1  
プロポーザル

### iii) New Mobility – アクティブ・トラム –

#### ◇図書館

駅前の空洞化が進む中で、移動式の図書館を提案する。多くの図書が収納されており、普段図書館に通わない人でも近くに来ることで利用しやすくなったり、移動時間に本を読むことも可能である。時には図書館から図書館へ本を運んだりもする。

 庇による、図書スペースの拡大



 モビリティ内でも図書スペースを確保

 開口から外と内とを関係づける

## 4. 提案

### iii) New Mobility - アクティブ・トラム -

#### ◇八百屋

移動式の八百屋を提案する。主婦や仕事帰りの会社員、高齢者が利用する。日によって店を開く場所を変える。  
住宅地でも店を開くことから、高齢者にやさしい。

庇のような役割を果たす



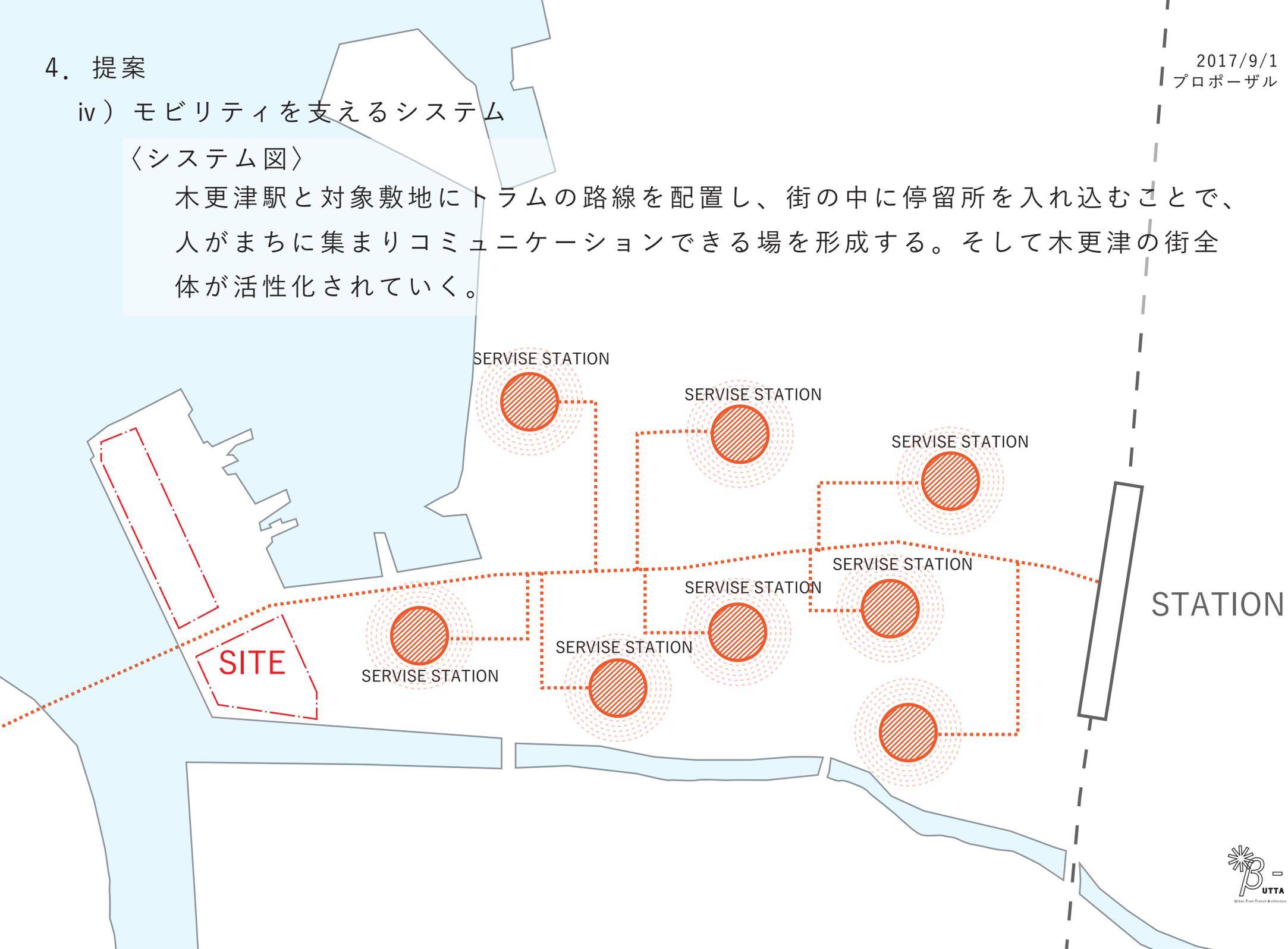
道路にも食べ物を並べる

#### 4. 提案

##### iv) モビリティを支えるシステム

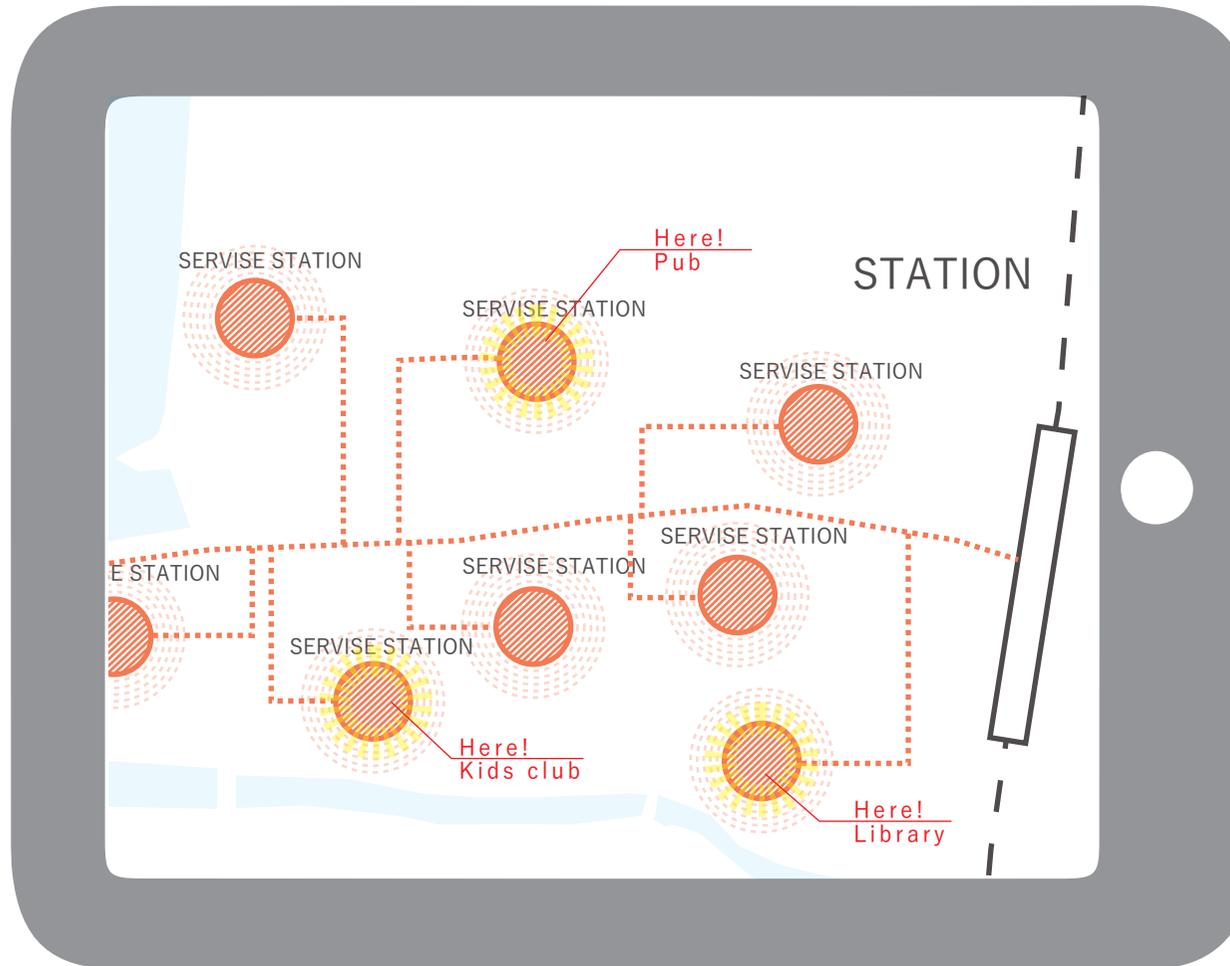
###### 〈システム図〉

木更津駅と対象敷地にトラムの路線を配置し、街の中に停留所を入れ込むことで、人がまちに集まりコミュニケーションできる場を形成する。そして木更津の街全体が活性化されていく。



## 4. 提案

### iv) モビリティを支えるシステム



#### ◇ 運行情報の把握

タブレット端末や携帯などで、実際にどのような活動が各停留所で行われているのかを把握することができる。

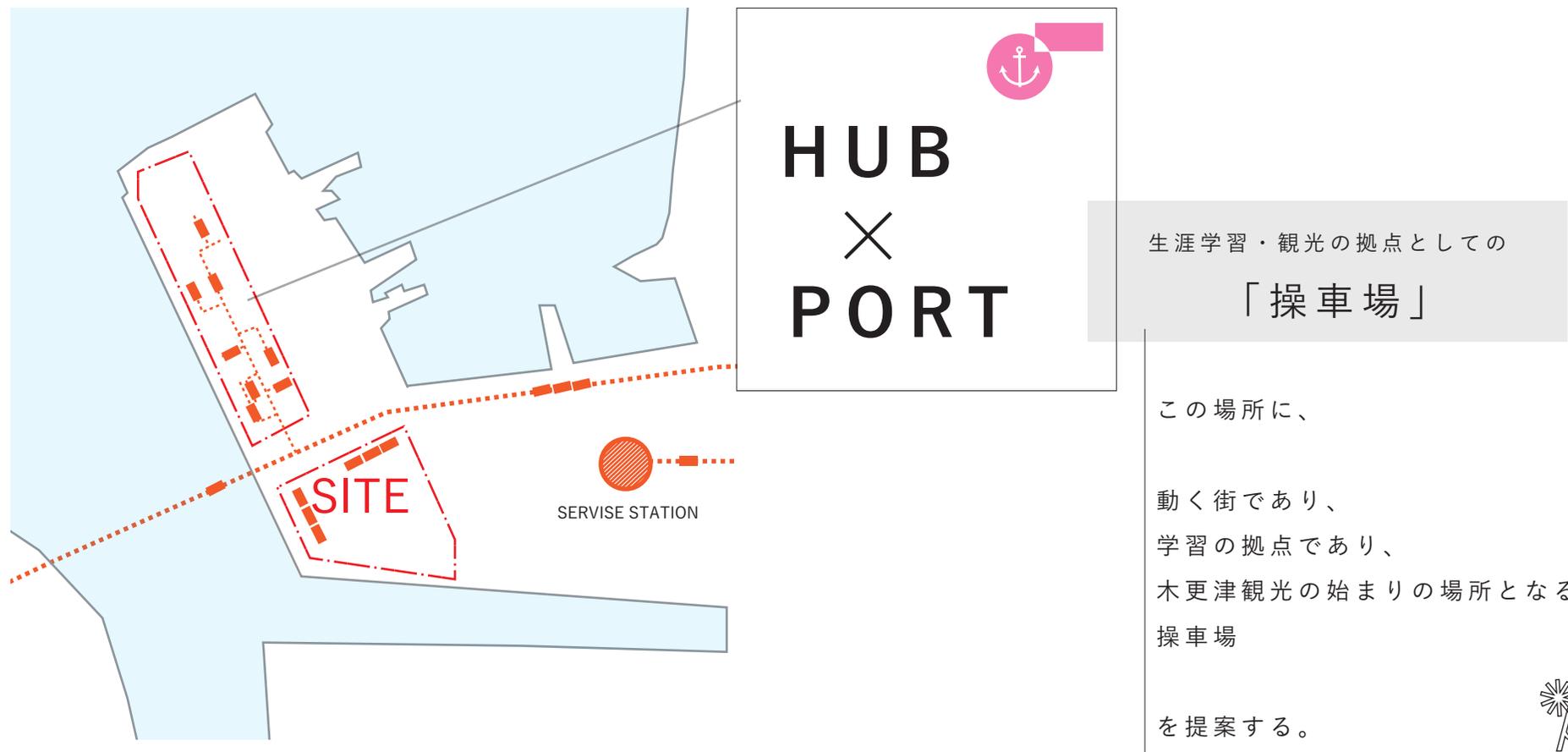
## 4. 提案

### V) 対象敷地

#### ◇HUB×PORT 学習・観光の拠点としての操車場

対象敷地はトラムの運行を支える操車場とし、アクティブトラムによって小さな町が形成され、賑わいの拠点となる。

同時に生涯学習の中核としての機能を持ち、その活動はトラムによって街全体で展開される。また、旧市街地に直結する観光用船着き場としての役割も果たす。



## 5. おわりに

2017/9/1  
プロポーザル

東京湾の対岸には横浜が位置する。

横浜港に寄港するために横浜ベイブリッジを通過する必要がある。

なお、ベイブリッジから海面までの高さは55mであり超大型豪華客船が寄港できないという。

横浜ベイブリッジ



<http://anniversary.kawada.jp/detail/no1002349.html>

横浜港



[http://www.jopa.or.jp/port\\_detail/yokohama.html](http://www.jopa.or.jp/port_detail/yokohama.html)

## 5. おわりに

2017/9/1  
プロポーザル

一方、木更津の対象敷地までの航路には障害物がない。

木更津には超大型豪華客船の寄港地になり得るのではないだろうか。



<http://kuisugimasa.hatenablog.com/entry/2017/01/07/125840>